

平成29年度 高等学校「道徳」を学ぶ時間 年間指導実施報告 調査結果

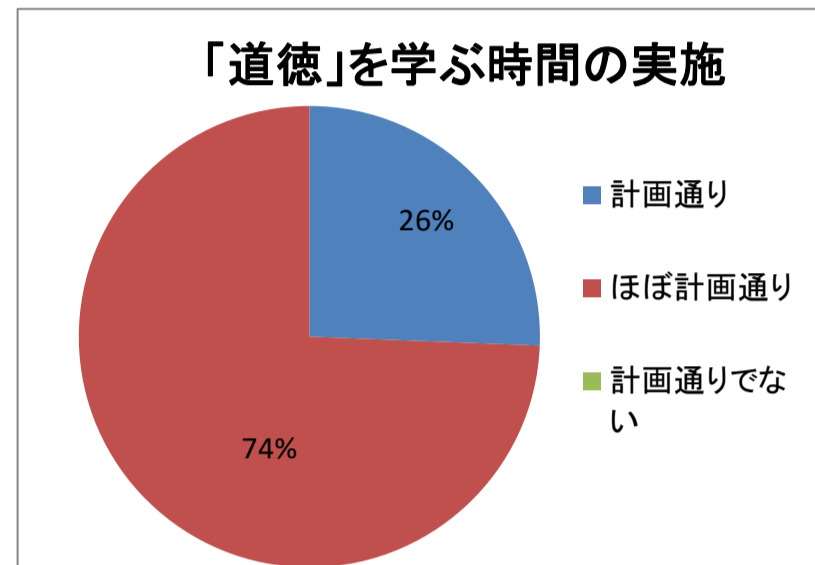
千葉県教育庁教育振興部学習指導課

平成29年度高等学校の「道徳」を学ぶ時間年間指導実施報告について、下記の学校を対象として調査を実施しました。（調査対象期間平成29年4月1日～平成30年3月31日）

県立高等学校 全日制 121校（※県立千葉大宮高等学校、松戸南高等学校は除く）

1. 「道徳」を学ぶ時間の実施

実施状況	県立高等学校 全日制	
	計画通り実施している	31
ほぼ計画通り実施している	90	校
計画通り実施できていない	0	校
合計	121	校



【考察】

全体の100%（前年比+1ポイント）の学校が、計画通り、ほぼ計画通りに実施できたようである。高等学校での「道徳」を学ぶ時間が開始され、5年を経たことにより各学校で定着しつつある結果と考える。

今後は、より生徒の実態に即した指導計画の立案が課題と考える。

2. 読み物教材「明日への扉」「明日への扉Ⅱ」活用状況

活用状況	県立高等学校 全日制	
	「明日への扉」を活用した学校率	66
「明日への扉Ⅱ」を活用した学校率	75	%
各学校での読み物教材活用率	100	%
「明日への扉」「明日への扉Ⅱ」の平均使用回数	3.6	回

※「各学校での読み物教材の活用率」は、県作成読み物教材「明日への扉」「明日への扉Ⅱ」のいずれか一方を活用している場合を含む。

【考察】

県で作成した読み物教材の活用状況は100%であり、各学校での積極的な活用が報告された。教材別では、「明日への扉」が66%（前年比-3%）、「明日への扉Ⅱ」が75%（前年比+5%）であった。昨年度に引き続き、読み物教材の積極的な活用を促進した。今後は、本年度作成・配付の「明日への扉Ⅲ」の活用と併せ、「明日への扉」、「明日への扉Ⅱ」についても、バランスよく活用するよう促していく。

内容項目別として、「明日への扉」では、昨年同様に「【6】福澤心訓」「【9】電車やバスで」等の「自己の在り方生き方」や「マナー・規範意識」に関する内容を扱う学校が多かったようである。また、「明日への扉Ⅱ」でも昨年同様に「【8】完全犯罪」「【6】あるレジ打ちの女性」等の「情報モラルを扱ったいじめを題材にしたもの」や「キャリア教育の視点を扱ったもの」に関する内容を扱った学校が目立った。

3. 映像教材「青春のホイール」「守りたいもの/支える人になりたい」活用状況

「青春のホイール」	県立高等学校 全日制
活用した	73 校
活用しなかった	48 校
合計	121 校
「青春のホイール」を活用した学校率	60.3 %
「青春のホイール」を活用した学校で実際に視聴したクラス率※	97.0 %

「守りたいもの/支える人になりたい」	県立高等学校 全日制
活用した	59 校
活用しなかった	61 校
合計	120 校
「守りたいもの/支える人になりたい」を活用した学校率	48.8 %
「守りたいもの/支える人になりたい」を活用した学校で実際に視聴したクラス率※	99.7 %

「青春のホイール」「守りたいもの/支える人になりたい」のいずれかを活用した学校率	71.9 %
--	--------

※活用しなかった主な理由
他の映像教材を活用したため
読み物教材を中心に展開したため 等

※クラス率の算出方法

$$\text{クラス率} = \frac{\text{実際に実施したクラス数}}{\text{「青春のホイール」又は「守りたいもの/支える人になりたい」を活用した学校で「道」}}$$

【考察】

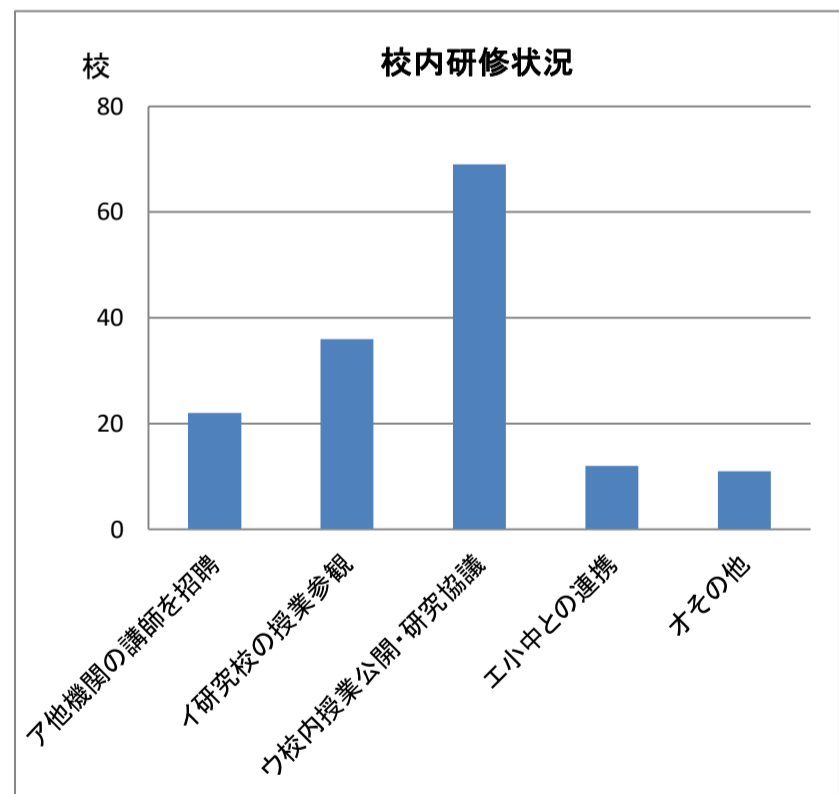
県で作成した映像教材は、約71.9%の学校が活用している。活用しなかった学校の理由として、他の映像教材等の活用ためとの報告があった。また、読み物教材が充実し、特に「明日への扉」、「明日への扉Ⅱ」の活用を積極的に促したことから、読み物教材中心に授業展開したため映像教材の活用を控えたとの報告もあった。

課題としては、各学校において映像教材を視聴する施設や機材の充実である。また、時間の確保が難しく映像教材を活用できなかったとの報告もあり、生徒の実態を踏まえた指導項目の精選等を実行していくことの大切さがうかがえる。今後も研修等で映像教材の活用について積極的に取り入れることを促していきたい。

4. 校内研修状況（複数回答可）

校内研修の状況	県立高等学校 全日制
実施した学校	105 校
平均研修回数	2.1 回
ア 他校・他機関の講師を招いて実施した。	22 校
イ 研究指定校の「道徳」を学ぶ時間の参観をした。	36 校
ウ 校内で授業公開等、研究協議をした。	69 校
エ 近隣の小・中学校と連携した。	12 校
オ その他	11 校
実施しなかった学校	16 校

※実施しなかった主な理由
他の研修を優先したから



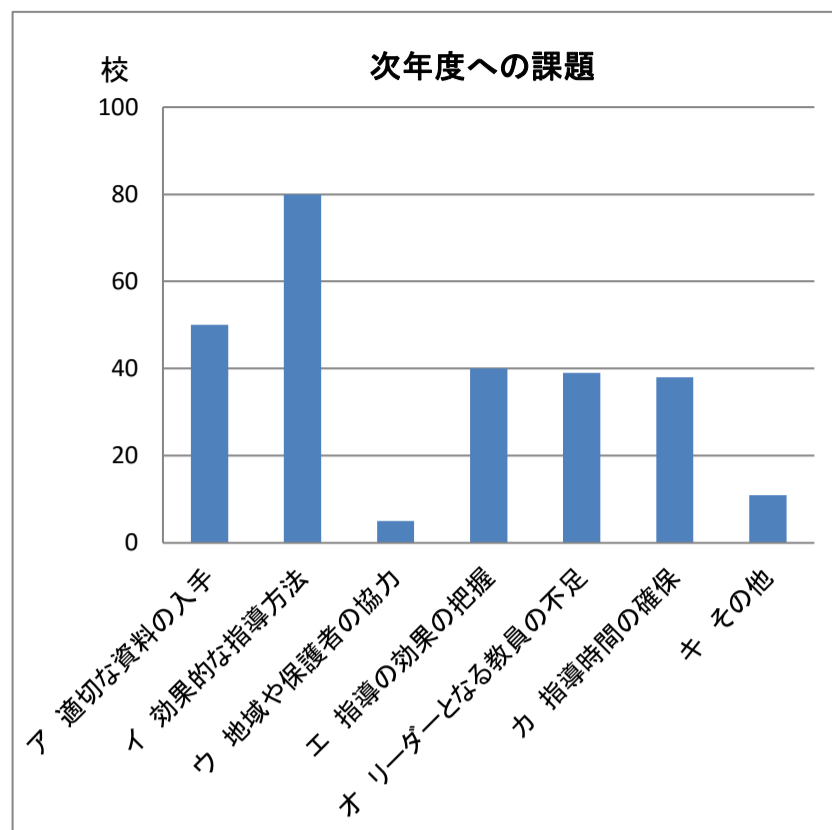
【考察】

全体の87%の学校が「道徳」を学ぶ時間の校内研修を実施した。全体として昨年同様の傾向を示し、校内での授業相互参観や研究協議、研究指定校の授業参観を活用した研修が主なものであった。実施できなかった理由として、他の研修を優先した、時間の設定ができなかった等が挙げられた。平成30年度も研究指定校の授業参観や近隣の小・中学校への授業参観を通して、「道徳」を学ぶ時間について一層充実した研修を促進していきたい。

5. 次年度への課題（複数回答可）

次年度への課題	県立高等学校 全日制	
	ア 適切な資料の入手	50
イ 効果的な指導方法	80	校
ウ 地域や保護者の協力	5	校
エ 指導の効果の把握	40	校
オ リーダーとなる教員の不足	39	校
カ 指導時間の確保	38	校
キ その他	11	校

※その他の主な内容
独自の教材の更なる開発



【考察】

それぞれの項目で、ほぼ昨年同様の回答であった。「適切な資料の入手」、「効果的な指導方法」について、課題とする学校が多いが、「適切な資料の入手」については、今年度「明日への扉Ⅲ」を作成・配付し、積極的な活用を促していくことにより、課題の解決につながるのではないかとと思われる。他の課題解決に向けては、各種研修会で「効果的な指導方法」に関する内容や各学校の情報交換等を積極的に行っていきたい。